

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

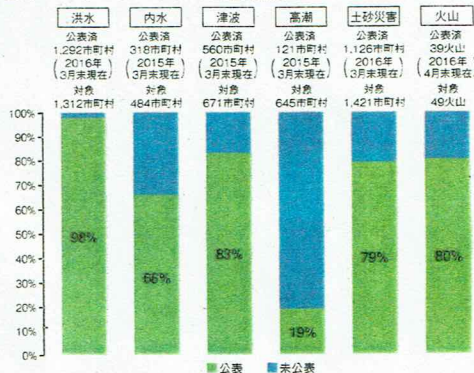
発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2871



2018/09/08

「防災」と「まちづくり」を「現場」で結びたい。

図1 ハザードマップの公表状況



出典：内閣府(2017)「平成29年防災白書」附-65頁

日本の国土はその自然的条件により、地震、台風、梅雨等による集中豪雨、土砂災害、竜巻、大雨、大雪、火山噴火等の様々な自然災害が発生しやすい環境にある。防災インフラの整備水準という社会的経済的條件によっては深刻な被害を経験することになる。各種の被害軽減やハザードマップの作成、公表が進む中で、自らを奮起している地域の災害リスクの存在自体は知らず、状況

ポテトで競う小学生の参加者。かつかかえろ。



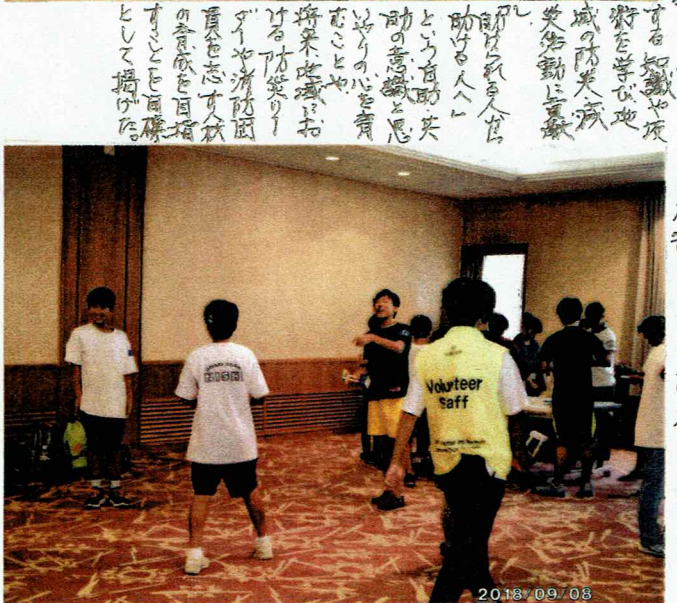
2018/09/08

防災とまちづくり
助けられる人から助ける
入へ、東京、都、荒川、区は、
区内の約1割が木造住宅完
成地域で、首都圏下地震
が所属している。
防災部員が防災に関
する知識や技
術を学び、地
域の防災、災
害活動に貢献
する。



2018/09/08

荒川区長は以前から自分たちの町は自分たちで守らなければならない、自覚をもった防災インフラづくりを意欲的に進め、志を示していった。
平成29年度地域の防災活動の年報と作る防災インフラの意欲を目標に。
たしを作業する
たしを作業する
たしを作業する



2018/09/08

尾張旭の保育士さん、非常食をバックル、紙飛行機



2018/09/08